

第五十回 全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会

来聴歓迎・入場無料

主催

公益財団法人

日本吟剣詩舞振興会

○とき 令和五年三月十二日(日)

午前九時開場・午前九時三十分開会

○ところ ニッショーホール

(裏表紙参照)



ニッショーホール

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19ヤクルト本社ビル
TEL (03)6263-9957 FAX (03)6263-9874

【最寄駅】

- JR新橋駅「銀座口」より徒歩3分
- 東京メトロ銀座線 新橋駅『2番出口』より徒歩2分
- 新交通ゆりかもめ 新橋駅『1C出口』より徒歩3分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

大会次第

- 一、開会の辞
 - 一、審査講評
 - 一、国歌斉唱
 - 一、審査結果発表並びに入選者表彰
 - 一、財団会詩合吟
 - 一、財団代表挨拶
 - 一、閉会の辞
 - 一、大会実施要項説明
 - 一、審査委員紹介
 - 一、競吟
- (注意)
- 役員集合 午前八時四十五分
出場者集合 午前九時
- 時間厳守

吟剣詩舞道憲章

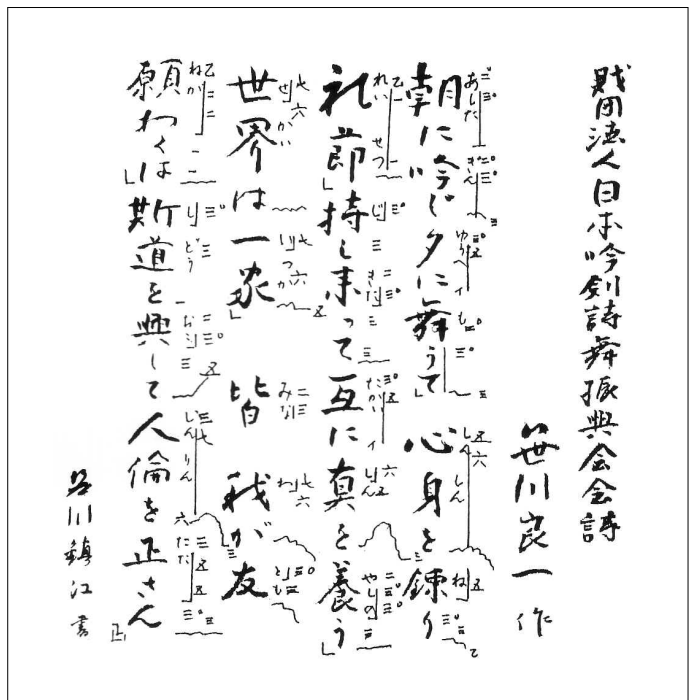
詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向することの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか 役員一同



- 一、基本姿勢
吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。
- 二、指導者の心構え
吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては權威をもって臨む。
- 三、師に対する心構え
吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。
- 四、分家・独立
吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。
- 五、他流との関係
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名譽を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎しむ。
- 六、吟剣詩舞道の普及向上
吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。
- 七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力
吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。

月刊 吟剣詩舞

日本吟剣詩舞振興会が発行する会報「吟剣詩舞」は、全国の吟剣詩舞道愛好家の皆さまの情報誌として、毎月発行されています。

振興会の公式行事や各地で開催される各流派の大会の様様、他分野の著名人を招いての座談会、吟剣詩舞に関する専門的解説、テレビやラジオでの放送内容や番組表など、吟剣詩舞ファンにとって見逃せない情報が満載されています。

●ぜひ、あなたの購読をお勧めします。
どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込みください。

購読料◆年間購読料五、〇〇〇円
(消費税込み)

申込方法◆月刊『吟剣詩舞』申込書購読料振替

用紙に、所要事項をご記入の上、年間購読料五、〇〇〇円を添えて最寄りの郵便局へお出しくださるようお願いいたします。

◆月刊『吟剣詩舞』についての問い合わせ先

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル7階
TEL 03-6721-5950 (代表)
FAX 03-6721-5960

—— 第五十回全国少壮吟詠家審査コンクール
決選大会開催にあたって



(公財) 日本吟剣詩舞振興会
会長 沼崎 富

よりいっそうの 吟道振興を

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催による、第五十回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会が、本日ここに盛大に開催されますこと、まことに喜ばしいことと存じます。ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、本大会のためにいろいろとご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しまして深く感謝申し上げます。吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に「礼と節」を教えるものであり、今日までの日本の民族精神の形成におい

て大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられております。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をなう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことと存じます。

本大会は、全国の少壮吟詠家の日ごろの研鑽を競う場と同時に、すぐれた少壮吟詠家選出の場とし、吟詠の芸術的向上を図り、あわせて吟剣詩舞道の普及振興に資することを目的とするものであります。

出場者の皆さんにおかれましては、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまにおかれましては、芸術的・音楽的に進歩した吟詠の今日像を正しく理解され、ひとりでも多くの人が斯道に親しむよう期待してやみません。最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

第五十回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会役員

大会会長 沼崎 富
大会副会長 多田 正稔

◎大会特別顧問

山岡 哲山 小幡 神叡
矢萩 鳳祥 武田 禧洲
松岡 蒨洲 野中 秀鳳
日置 彩峰 杉浦 容楓
横山 寿城 山内 正風
多田 正満 八文字 剛洲
田中 岳藤 山口 華雋
山中 兼正 黒田 秀月
加藤 紫昇 宮島 神鳳
木村 鳳鶴 池田 洲玉
池田 嶺煌 上久保 雪女
松永 悠楓 榊原 静芳
星野 紫虹 志塚 心将
小林 北鵬 梶 風映
阿部 吟鳳 中澤 春誠

◎大会参与

福永 瀧靈 藤原 撰楠
益中 鵬山 前島 昊龍
八代 輝靈 廣重 光風
小野 光翠扇 山路 泰洲
向山 侑吟 山本 賀陽
安永 江悠 青柳 芳寿朗
横山 精真 後藤 月戈
熊木 雪洲 齋木 彩染
奥村 精曄 佐々木 翠鵬
星野 洲虹 田中 竜真
石井 桃苑 石川 春洋
鈴木 凱山 菱谷 彩佑
榊原 朝鵬 梅澤 昌峰
志塚 朝鵬 奥脇 嶽津
梶 風嶺 中澤 春誠

◎審査委員長

◎特別審査委員

◎審査委員

徳田 寿風 河野 正明 河野 鶴聲
宮川 紫朋 奥村 精曄 和田 彩楓
奥村 精曄 池田 菖黎 前山 紫峰
池田 嶺煌 池田 嶺煌 田畑 水姫
清水 錦洲 清水 光侖子
清藤 晃楓 遠藤 晃楓

松崎 圓子 (15) 一色 敏子 (15) 早瀬 悦子 (15) 風呂谷 照代 (15)
神賀 明子 (17) 大西 博美 (17) 村上 和美 (18) 横山 真吾 (18)
岡林 一孝 (20) 板谷 加代子 (21) 舛田 萬和 (21) 田村 謙地 (22)
西原 玲子 (24) 岩間 弘光 (24) 村勸 利和 (24) 金子 昭二 (25)
鈴木 順子 (26) 永渕 みどり (27) 森田 智子 (27) 古城 久美生 (28)
大島 哲夫 (28) 富山 正一 (29) 竹内 芳子 (29) 渡辺 久晃 (29)
盛満 眞弓 (30) 河田 久子 (30) 山本 やすみ (30) 林 潤子 (30)
田村 純子 (32) 麻生 義人 (34) 大野 広美 (34) 米田 千春 (35)
坂本 裕視 (37) 丹羽 峰子 (37) 小坂 友二 (38) 井本 雅代 (38)
石田 義則 (39) 森脇 弥生 (39) 安部 悦子 (40) 松浦 慶治 (40)
栗田 優子 (43) 下河邊 智佳子 (43) 赤塚 善夫 (44) 吉澤 純子 (45)
植田 そのみ (46) 林田 麻由 (47) 高橋 恵子 (47) 辻 寛子 (49)
中西 光恵 (49) 桶谷 麻美 (46) 吉本 綾 (40) 柳本 久美子 (38)
石井 町子 (35) 古賀 千恵子 (30) 黒柳 貞子 (29) 加茂 久子 (31)
亀井 きみ子 (35) 北川 達也 (39) 古賀 智美 (41) 高橋 真衣子 (46)
赤松 由紀 (46) 仲宗根 香 (41) 吉田 博 (39) 粥川 しげ子 (36)
児島 節 (32) 橋本 貴守 (30) 石原 光浩 (28) 廣瀬 百合子 (26)
森田 和子 (24) 寫田 智恵子 (19) 藤岡 静江 (17)

〈二回入選者一四八名〉

池田 功 (22) (24)	堀井 良美 (24) (25)	湯本 忠夫 (20) (26)	小林 千弘 (20) (26)	奥津 公男 (22) (26)	北浦 宏子 (23) (26)	北村 孝子 (25) (27)
佐藤喜知子 (23) (27)	菰田 初子 (27) (29)	森本三恵子 (27) (28)	正野 初代 (28) (29)	岡野 冴子 (30) (31)	胡中 緑 (30) (31)	中谷 紀子 (20) (32)
中筋 和子 (30) (32)	宮崎 瑞枝 (31) (33)	小川美登里 (32) (33)	樋口 康子 (30) (34)	佐藤 慶子 (25) (34)	清水 昌子 (32) (35)	古賀美智子 (29) (36)
甲斐 君子 (33) (36)	牛尾 明 (28) (36)	村山 凉子 (34) (37)	渡辺 晴美 (35) (37)	田村 三幸 (34) (38)	甫守美和子 (37) (39)	瀧下 和雄 (37) (39)
岩城 伸子 (38) (40)	南方 栄 (37) (41)	井川 良得 (38) (42)	藤原 幸 (40) (42)	津田 千夏 (41) (43)	春藤薫於里 (42) (43)	榮 葉子 (43) (44)
平野 千草 (42) (45)	藤井 真美 (43) (45)	今井美津子 (44) (45)	野上 孝時 (45) (46)	梅村 佳代 (45) (46)	竹内 彩 (45) (46)	郡司 明子 (46) (47)
恒成 育香 (42) (48)	西岡佐智世 (47) (49)					
飯森福太郎 (1)	山本 琳子 (1)	長屋 幸吉 (1)	児島 忠夫 (1)	井口 恵弘 (1)	伊藤ひさ子 (1)	幸田 勝弘 (1)
平形 亨 (1)	三好 紀夫 (2)	松坂比呂志 (2)	荘司 愛 (3)	池川 国章 (3)	長峰 康子 (3)	米谷さつき (3)
豊満 富治 (3)	鈴木 恵子 (3)	吉田 佳子 (3)	秋葉喜代子 (3)	佐藤 義信 (3)	本田 昭 (4)	石本今朝幸 (4)
多々良 剛 (4)	町田 敏子 (4)	斎藤喜八郎 (4)	羽切 弘行 (4)	森下 猛 (4)	高山 正彦 (4)	葉林 睦朗 (4)
朝倉 芳男 (5)	佐々木敏郎 (5)	清水口晴子 (5)	陶山 邦男 (5)	元岡 専一 (5)	山本 正 (6)	佐藤美智子 (6)
山本 晴信 (6)	田中 稔 (6)	日置 則男 (6)	深沢 勝昭 (7)	佐々木孝子 (7)	笠原 昭弘 (8)	中山 駿一 (8)
緑川 都子 (8)	大川 行男 (8)	後藤 幸代 (8)	前田 嘉弘 (8)	小谷 集徳 (9)	宮内美津子 (9)	松永 恒夫 (10)
園山 順子 (10)	為房 進一 (10)	安部 功二 (11)	佐野智洋子 (11)	石原三喜雄 (11)	小塩 益弘 (11)	染田 恭次 (12)
柳内 修 (12)	久和かず子 (12)	金子今朝美 (13)	大西 幹久 (13)	西村 淳子 (14)	藤田九一郎 (14)	松本 浩有 (15)

〈県連代表〉

澤石 峯洲	梅田 錦翠	阿部 清心	佐藤 岳翠
寺嶋 城靖	立身 岳元	舘岡 奥鵬	宮川 紫朋
栗野 電暉	高橋 瑞祥	上田 岳美	黒田 秀月
齋藤 心晃	鈴木 海洲	石井 桃苑	清水 錦洲
毛塚 静精	篠崎 興國	小松 獅剣	飯田 報信
入倉 昭星	臼井 寛洲	松澤 天楓	北瀬 岳櫻
渡邊 皇洲	後藤 娟桜	堀口 孝心	鉤 正賀
山田 静将	山口 華雋	渡辺 絃山	北川 哲水
古川 壽泉	藤上 翔山	楠部 齋山	高木 法洲
佐藤 翔風	中林 涼風	徳田 寿風	安永 江悠
山下 明穂	濱田 翠峰	河野 鶴聲	安部 洗靈
伊藤 翠鳳	藤本 誠堂	中武 玲星	向山 侑吟
日向美代峰	金城 岳周		

運営委員

◎総務委員長	毛塚 静精	榊 裳風	山田 伯峯
◎副委員長	斎木 彩染		
◎委員	相田 華鐘(医務担当)		
◎資材管理委員長	鈴木 洲玉		
◎副委員長	小池 洵風	八幡 景洲	
◎委員	荒井 剛嶺		
◎庶務委員長	木村 鳳鶴	中島 園心	
◎副委員長	魚住 伸水		
◎委員	牧 蘇新		
◎計時委員長	齋藤 心晃	門倉 香江	猿渡 柳水
◎副委員長	秋山 精正		
◎委員			
◎舞台進行委員長	田中 竜真	立田 翔善	
◎副委員長	長谷川煌研		
◎委員	宇井 修光	星野 紫栄	林 煌彩

◎受付委員長 上久保雪女
同 副委員長 寺山天洲 吉野煌瑤
◎連絡委員長 星野洲虹
委員 三浦 暁泉 須藤 紘誓 小湊 壮雲
◎司会委員長 田中国臣
同 副委員長 丹治 独風 今村 契鉅
委員 石川 春海 大山 宗鵬

◎広報委員長 後藤 月戈
同 副委員長 小谷野煌弘
◎詩文監査委員長 佐々木翠鵬
同 副委員長 中野 吟紫

◎吟題委員長 久保田正峰
同 副委員長 渡辺 錦翔 菅原静麿佐 伊藤 契麗
加藤 契毬

◎賞状作成委員長 石井 錦文 石井 嶺亮 縣 鷹雪
同 副委員長 武藤 嶺榮 多嘉良誠翔 湊 紀器

◎賞典委員長 鈴木 吟亮 鈴木 吟亮 垣下 真菰
同 副委員長 大森 精翠 中嶋 美声 滝本 紫苑

◎接待委員長 石井 桃苑
同 副委員長 大森 精翠 中嶋 美声 滝本 紫苑

◎集計委員長 熊木 雪洲 藤田 霜晃 麻生 契春
同 副委員長 高橋 嶺香 長谷川稀泉 河西風慶律

◎音響記録委員長 小林 岳章 岡田 一穂 奥谷 宝昌 石田 風章
同 副委員長 高柳 玄山 湯口 岳政

田中 文夫 (29) (30) (32)
今村 晴夫 (25) (33) (34)
山中富美子 (19) (20) (36)
向山 里水 (35) (37) (38)
植田惠理子 (36) (39) (40)
長谷川英子 (40) (41) (42)
今城 栄子 (41) (44) (45)
岩永 優 (44) (46) (47)
大森 加織 (45) (47) (49)

辻本 圭子 (28) (31) (32)
成田真秀子 (31) (32) (35)
前田 卓美 (34) (36) (37)
巽 正博 (33) (36) (39)
和田美代子 (31) (33) (41)
浅田 圭一 (38) (39) (43)
山中真理子 (43) (44) (45)
関口 ゆり (44) (46) (47)

大澤 三枝 (29) (31) (32)
宇井 久絵 (33) (34) (35)
府川有紀子 (34) (35) (37)
奥山阿佐子 (37) (38) (39)
松葉 洋和 (38) (40) (41)
廣瀬 詔子 (40) (42) (43)
野嶋 志帆 (43) (44) (45)
星野 早苗 (44) (45) (48)

陣川 章尋 (22) (24) (33)
田中 和美 (33) (34) (35)
米山久美子 (31) (36) (37)
梶原 礼子 (35) (37) (39)
辻 久美子 (38) (41) (42)
小池 貴子 (41) (42) (43)
箱田 朝子 (43) (44) (46)
石川 千尋 (41) (47) (48)

長山 祝子 (31) (33) (34)
尾崎 富美 (33) (35) (36)
猪木原美香 (32) (33) (38)
加藤 洋子 (32) (36) (40)
向山 人水 (40) (41) (42)
石川 和男 (36) (42) (44)
伊東 智子 (43) (44) (46)
林 綾香 (41) (45) (48)

村岡 小雪 (29) (30) (34)
小林 富子 (33) (35) (36)
安藤 聖子 (35) (36) (38)
原田今日子 (38) (39) (40)
堤 由美 (40) (41) (42)
林 明美 (42) (43) (45)
田村 勇樹 (42) (44) (46)
大山 知巳 (39) (46) (48)

山岡 貴子 (32) (33) (34)
土澤なぎさ (34) (35) (36)
佐々木康人 (32) (37) (38)
菊野ひろみ (37) (39) (40)
青木加代子 (40) (41) (42)
蒔田 直子 (39) (44) (45)
中野 理恵 (43) (44) (47)
牛島 美和 (46) (48) (49)

〈二回入選者八十六名〉

樋口 捷一 (2) (3)
綿引 建次 (2) (3)
上原 豊 (2) (6)
小川 澄子 (2) (3)
酒井 純 (6) (8)
松隈 睦子 (8) (9)
関口 法男 (2) (4)

木村 学 (4) (6)
久賀美和子 (6) (8)
甘利 修一 (4) (8)
加藤 桂子 (12) (13)
橋本 東峰 (13) (14)
鈴木 輝明 (13) (14)
加藤佐喜子 (6) (10)

中嶋 初子 (8) (10)
広山幸太郎 (11) (13)
山本 墨江 (13) (18)
安藤 定喜 (17) (18)
本田修二朗 (18) (19)
鈴木 保英 (14) (19)
太田 弘子 (15) (16)

渡辺ヨリ子 (10) (17)
長谷川ユウ子 (16) (17)
入江 敏夫 (17) (19)
森川 祐幸 (15) (20)
小野 真理 (20) (21)
平田 公三 (16) (21)
藤本佐喜子 (20) (21)

中川 千鶴 (16) (19)
黒田せつ子 (22) (24)
竹内喜八郎 (23) (24)
為国 馨 (18) (24)
矢野 泰三 (14) (24)
福島 弘子 (23) (24)

佐藤 弘子 (13) (19)
前重 興亮 (11) (17)
太田加代子 (8) (10)
大野 悠光 (4) (5)
玉村 暢郎 (1) (4)

山城 明久 (7) (23)

全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会入選者一覽表（○内数字は入選回）

〈三回入選者一五五名〉

石井 武 (1)(2)(3)	長岡 政秋 (1)(2)(3)	長谷本延藤 (1)(2)(3)	本村 政子 (1)(2)(3)	横田 博 (1)(2)(3)	奥菌 道子 (1)(2)(3)	高橋 忠 (1)(2)(3)
金井 常幸 (1)(2)(4)	小林 久 (2)(3)(4)	土方 友一 (2)(3)(4)	増田 忠和 (2)(3)(4)	仁科 教博 (2)(3)(5)	箕輪 武人 (1)(3)(4)	秀平 昌巳 (2)(3)(5)
渡辺 修正 (1)(4)(5)	佐々木貫二 (1)(4)(5)	中尾 克久 (2)(3)(6)	辻島 利隆 (2)(4)(5)	真木 孝三 (2)(5)(6)	三田 和氣 (1)(5)(6)	鈴木 治 (4)(5)(6)
森下 誠子 (5)(6)(7)	若原 将昭 (2)(5)(7)	阿部 敏宗 (4)(5)(7)	村辺 辰子 (2)(4)(7)	忽那 哲夫 (3)(4)(7)	八代 正輝 (3)(4)(7)	沼田 益定 (3)(4)(7)
中澤 治重 (6)(7)(8)	久住 利彦 (6)(7)(8)	志塚 巖 (5)(6)(8)	渡辺 虎雄 (3)(5)(9)	幡地 輝政 (3)(6)(9)	藤河 清平 (6)(8)(9)	横山 寿宏 (4)(7)(9)
陶山 昇平 (6)(7)(9)	大木 弘泰 (2)(6)(9)	海老澤元孝 (5)(6)(9)	松葉 勲 (5)(7)(10)	岡田 陽介 (6)(8)(10)	西山 正男 (4)(6)(10)	秋山 昌徳 (1)(2)(10)
田中 幹康 (5)(9)(10)	金戸 久恵 (9)(10)(11)	瀬戸喜久子 (7)(9)(11)	竹内 隆一 (8)(11)	齋藤 愛子 (6)(7)(11)	安福 安子 (8)(9)(12)	杉山 広子 (8)(11)(12)
山下 勝春 (9)(11)(12)	山本 剛 (10)(11)(12)	工藤 信義 (5)(6)(13)	田邑喜代子 (9)(11)(13)	山岡 紀子 (12)(13)(14)	橋本かつ美 (12)(13)(14)	木村 弘 (11)(12)(14)
薦田 欣吾 (9)(10)(14)	田畑 一子 (11)(12)(13)	菅 利氣恵 (13)(14)(16)	徳田 良子 (14)(15)(16)	犬飼 信之 (11)(15)(16)	山口 英二 (5)(11)(16)	藤原美知子 (16)(17)(18)
白波瀬正司 (16)(17)(18)	奥村 愛 (15)(16)(18)	有森 孝子 (12)(15)(20)	木村 武正 (15)(19)(20)	大森加寿子 (18)(20)(21)	河田 千春 (18)(20)(21)	辰巳日出子 (18)(20)(21)
吉村 都嗣 (9)(16)(21)	池田 与一 (19)(21)(22)	宮野 圭司 (14)(16)(23)	大熊 秀子 (18)(19)(23)	北瀬くみ子 (19)(22)(24)	北村 紀子 (9)(17)(24)	松野 幸男 (22)(23)(24)
白井 寛雄 (14)(21)(24)	池田 京子 (22)(23)(25)	矢田 勝利 (9)(22)(25)	渡辺亜希子 (23)(24)(25)	清水 一 (19)(21)(25)	田中 和夫 (17)(19)(25)	梶田 勝美 (20)(21)(27)
前山 良彦 (23)(26)(27)	中野 民子 (19)(21)(27)	伊藤美智子 (25)(26)(28)	明神 春恵 (23)(26)(28)	岸木 伸子 (26)(27)(28)	八代 美恵 (27)(28)(29)	久保 早苗 (25)(28)(29)
大木津多代 (28)(29)(30)	米本 敬子 (26)(27)(30)	伏尾 画子 (21)(22)(31)	塚本 康江 (21)(26)(31)	中武 玲子 (27)(28)(31)	塩澤比早江 (25)(29)(31)	後藤 憲子 (18)(27)(32)

◎会場委員長	三枝 契憲
同 副委員長	福田 秀峰
委員	目黒 恭鵬
	野中 紀導
	橋場 由貴
◎大会本部事務局	大田 直樹
事務局 長	大塚 政暢
事業課長代理	森谷 文子
総務課 員	

◎第五十回少壮コンクール指定吟題

- 絶句
- 1 花に対して旧を懐う (釈 義堂)
 - 2 海南行 (細川 頼之)
 - 3 豊公の旧宅に寄題す (荻生 徂徠)
 - 4 舟大垣を発し桑名に赴く (頼 山陽)
 - 5 酒に対す (白 居 易)
 - 6 秋 思 (許 渾)
 - 7 独 柳 (杜 牧)
 - 8 剣門の道中にて微雨に遇う (陸 游)
- 続絶句
- 9 無 題 (阿倍仲麻呂)
 - 10 芳野に遊ぶ (頼 杏坪)
 - 11 偶 成 (松平 春嶽)
 - 12 絶命の詞 (黒沢忠三郎)
 - 13 越中覽古 (李 白)
 - 14 中秋月を望む (王 建)
 - 15 従軍行 (乾 隆 帝)

第五十回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会実施要項

(1) このコンクールは、公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会（以下財団と呼ぶ）が実施するもので、全国の少壮吟詠家の日ごろの研鑽を競う場とすると同時に、すぐれた少壮吟詠家選出の公の場とし、吟詠の芸術的向上を図り、あわせて吟剣詩舞道の普及振興に資することを目的として、都道府県大会（第一次予選）・地区大会（第二次予選）・全国大会（決選大会）の形式で行われるものである。

(2) このコンクールの参加資格は、財団加盟の各団体・各流・各会所属の吟詠家で吟歴七年以上、指導歴三年以上で、年令が令和四年四月一日現在、満三十五歳以上五十五歳以下（昭和四十一年四月二日以後昭和六十二年四月一日以前に生まれた人）で、会長以上の責任者の推薦を受けた人とする。ただし、年齢に関しては前年度の決選大会で入選者となった場合に例外を認める。

この決選大会の参加者は、地区大会入選者と、前年度の決選大会においてこの決選大会に直接出場する権利を得た者に限られる。

(3) このコンクールの決選大会は、財団本部が主催し、その運営は全国大会実行委員会が担当して次の審査要領によって実施する。

(イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され、財団本部理事会で決定する。

(ロ) 一般審査の出吟順は、申込締切後に厳正公平な抽選で決定した決選大会プログラム順の順番どおりに行い、吟題はすでに発表された指定の絶句十五題のうちから選択する課題制とする。なお吟題決定の方法は、

④ 封筒十五通を一組とし、この封筒の中に①～⑮までの詩文六枚ずつを入れておく。

メ

モ

大会 予告

●令和五年度夏季吟道大学（予定）

▽と き 令和五年七月十五日（土）

～十六日（日）

▽ところ 勤労青少年水上スポーツセンター

（愛知県・碧南市）

●令和五年度全国名流吟剣詩舞道大会

▽と き 令和五年十一月十九日（日）

▽ところ 熊本城ホール

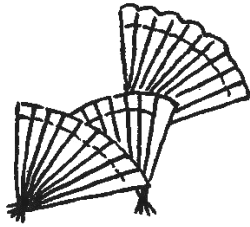
（熊本県・熊本市）

●第五十三回全国吟剣詩舞道大会

▽と き 令和五年十二月十日（日）

▽ところ 市川市文化会館・大ホール

（千葉県・市川市）



※今後の社会情勢の
変化により、日程の
変更・中止の可能性
がございます。

⑥ 出吟者は次のように区分する。

1 ～ 15、16 ～ 30、31 ～ 45、46 ～ 60、61 ～ 67

⑦ 各区分のトップ出吟者が出吟前四十分（二十番後）になつたとき抽選する。

⑧ 出吟者は六枚の詩文に出吟番号、氏名、音程及び曲目（音程及び曲目の記入は一枚のみ）を書き込み、吟題委員長に提出、吟題委員長は確認印を押し、一枚を司会、一枚を音響（音程及び曲目記入分）、一枚を詩文監査、一枚を発音審査委員に提出、一枚を出吟者に渡す。（出吟中この詩文を見て吟じてよい）

音程は、あらかじめ届け出たものとし、当日の変更は認められない。

⑨ 吟題委員は別に出吟者詩文原簿を作成する。

⑩ 吟題抽選順は各区分とも出場順の若いほうを先とする。

⑪ 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定の「吟剣詩舞道伴奏集」の前奏を確認して吟じ始める。吟題は言わず、出吟前後の敬礼は省略する。

(二) 吟詠時間は吟じ始めてから二分以内に吟じ終るものとする。

(ホ) 次の場合は失格とする。

① 出吟までに吟題決定の所定の手続きを行わなかった場合。

② 出番のときいなかった場合。

③ 課題吟以外のものを吟じた場合。

④ 詩文の読みが指定されたものと異なった場合。

⑤ 吟詠の途中で絶句（つかえること）した場合。

⑥ 吟じ始めてから二分を超えた報せのベルが鳴った場合。

⑦ その他、審査委員長が失格と認めた場合。

(ハ) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」（日吟振内規）によるものとし、発声（声質、技術）、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。同点の場合は審査委員長（または委員長代行）の得点が多い者を上位とする。審査委員長（代行）の得点も同点の場合は、審査員のプログラム掲載序列順に、上位の審査員の得点が多い者を上位とする。

(ト) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。

① 声の美しさ、品性、渋さなどとともに、発声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。

② 伴奏曲と調和（音程を含む）しているかどうか。

③ 共通語アクセント（わたりを含む）及びガ行鼻音が正確かどうか。

④ 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。

⑤ 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

(4) 入選者は審査終了後、審査委員会議で決定され、その発表は一般審査の終了後に行われる。入選者数は十五名以内とする。

(5) 特別審査等規定を次のとおり定める。

(イ) 決選大会にすでに二回以上入選している人（以下「少壮吟士準候補」と呼ぶ）は、一般審査での成績が上位十位以

内の場合には、出場者吟詠終了後に行われる特別審査に出場する。

(ロ) 特別審査の吟題は律詩課題制とし、出場者吟詠終了後、直ちに行われる五人単位の抽選によって決められたものを吟じるものとする。

(ハ) 少壮吟士準候補のうち、特別審査で一定の基準以上の成績を収めた人は少壮吟士候補として推薦される。

(ニ) 少壮吟士準候補のうち、特別審査で一定の基準以上の成績を収めることができなかった人は、入選者とみなされない。

(ホ) 少壮吟士準候補のうち、一般審査で上位十一位から十五位の人は、入選者とみなされない。なお、この場合は協議のうえ入選者を繰り上げる場合がある。

(6) 決選大会参加者の特典を次のとおり定める。

(イ) 入選者は大会当日会場で全国大会入選者として表彰し、次年度に行われる全国名流吟詠詩舞道大会への出演者に推薦される。

(ロ) 少壮吟士候補として推薦された人は、別に定める資格審

【お知らせ】

次年度より「少壮吟詠家審査コンクール」は「少壮吟詠家選考審査会」と改めて開催いたします。

詳細につきましては別添の資料をご確認ください。

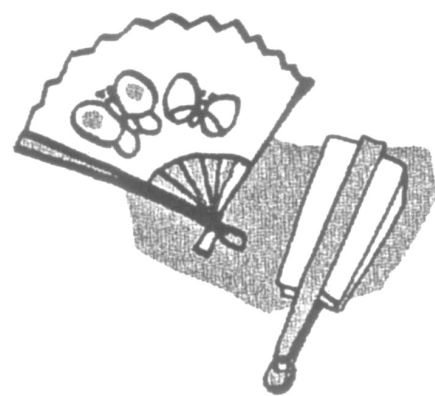
水六訓

- 一、あらゆる生物に生命力を与えるは水なり。
 - 二、常に自己の進路を求めてやまざるは水なり。
 - 三、如何なる障害をも克服する勇猛心と、よく方円の器に従う和合性とを兼ね備えるは水なり。
 - 四、自から清く他の汚を洗い清濁併せ容るの量あるは水なり。
 - 五、動力となり光となり、生産と生活に無限の奉仕を行い、何等報いを求めざるは水なり。
 - 六、大洋を充し、発しては蒸気となり、雲となり、雨となり、雪と変じ、霰と化してもその性を失わざるは水なり。
- 水を心とすることが平和と健康と長寿の妙薬であります。

笹川良一

出吟順	氏名	推薦総連	成績
57	小林 はるか	熊本	
58	上野 哲	東京	
59	増原 睦	愛媛	
60	中野 康子	広島	
61	持田 佳澄	神奈川	
62	山下 絵里子	千葉	
63	川口 和典	福岡	
64	中西 光恵	兵庫	
65	金杉 充子	千葉	

出吟順	氏名	推薦総連	成績
66	浦 麻紀	香川	
67	荒崎 有紀江	神奈川	



査を経たのち、全国吟剣詩舞道大会の式典において少壮吟士として認定、表彰される。

【注意】

- 一、詩文の読み方は財団発行の『吟剣詩舞道漢詩集』に、また詩文のアクセントは財団発行の『吟剣詩舞道アクセント付き漢詩集』によります。
- 二、出場者が、抽選用詩文用紙以外の詩文を見ながら吟じる場合、用紙の大きさは、はがき大とします。
- 三、成績発表並びに賞状授与の時に不在の人は失格となります。
- 四、本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用場合があります。

◎プログラムは大会当日必ずご持参下さい。
◎今回の地区別決選大会出場者数

員数	地区別
0	北海道
2	東北
24	東日本
9	中部
9	近畿
3	中国
7	四国
10	九州
3	第49回入選者等
67	計

36	35	34	33	32	31	30	29	28	27
太田武志	阿部香織	西岡佐智世	神野晶子	板東有希	藤城美富里	野田亜矢子	岩崎玲子	池田あゆみ	榮葉子
千葉	東京	大阪	大阪	徳島	千葉	東京	群馬	千葉	沖縄

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37
奥山久美子	望月偉可	小野寺雅美	廣野栄子	山本一成	松谷菜穂	野上孝時	平野千草	町映子	藤田ゆかこ
京都	静岡	香川	静岡	静岡	埼玉	栃木	佐賀	兵庫	東京

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47
原田佐知子	吉本綾	中澤宏	小笠原千洋	原田理絵	飯干京子	木屋優	辻寛子	綿谷未由子	桶谷麻美
愛知	広島	茨城	静岡	東京	愛知	東京	神奈川	三重	富山

8	7	6	5	4	3	2	1	出吟順
竹内彩	佐藤好美	藤原幸	加藤亜希子	鈴木美保子	栗山アイ子	田中達也	吉田あゆみ	氏名
京都	東京	広島	東京	東京	長崎	香川	大分	推薦総連
								成績

◆コンクール出場者

17	16	15	14	13	12	11	10	9	出吟順
荒川知子	山岡瑞恵	植田そのみ	原奈緒子	小倉七菜子	井戸隆裕	片山辰夫	栗田優子	七五三聖子	氏名
大阪	高知	京都	三重	神奈川	大阪	香川	大阪	兵庫	推薦総連
									成績

26	25	24	23	22	21	20	19	18	出吟順
渡部仁詞	土方圭秀	林田麻由	徳安秀作	楡井有実子	吉澤純子	恒成育香	佐藤仁美	大平美代	氏名
福島	東京	大分	福岡	東京	東京	大分	新潟	宮崎	推薦総連
									成績